

START-UP! BUSINESS SUPPORT TEAM JOURNAL

VOL.002 TAKE FREE



児童発達支援・放課後等デイサービス
「すぽ・まい」
スポーツを楽しみながら、心(マインド)を育む

児童発達支援・放課後等デイサービス「すぽ・まい」

住所 江別市あさひが丘 1-1
TEL 011-380-3010
営業時間 幼児 月・水・金 10:00~12:00 / 火・木 13:00~15:00 / 土 9:00~11:00
児童 月・水・金 15:30~17:30 / 火・木 16:00~18:00 / 土 13:00~15:00
アクセス JRバス【新29】線「体育の里前」下車 徒歩 1分 / JR「野幌駅」徒歩 10分
HP <http://www.sports-mind.jp> [facebook](#) 株式会社スポーツマインド



【本社】
株式会社スポーツマインド
札幌市中央区北4条西13丁目1-94第25藤栄ビル3F
TEL 011-208-5556 FAX 011-208-5557



NEWS

北海道信用保証協会からのお知らせ



創業王国・北海道

社長 is COOL! 開催しました!

社長のカッコイイを
もっと身近に



昨年12月6日に開催しました創業イベント「Start-up Fes.2014 創業王国・北海道 社長 is COOL!」には、のべ1,882人の方にお越しいただきました。

「SHARE シゴト創造部からの提言」
「輝く女性経営者たちのトークセッション」
コンサドーレ札幌の野々村社長による
「北海道のカッコイイ社長」のステージイベントは
いずれもたくさんの皆様にお集まりいただきました。
そして、子供向けのフロアイベントもたくさんのお子様の笑顔にあふれ大賑わいとなりました。
足をとめパネル展をじっくりとご覧いただいたお客様、
オーエンくん、シエンちゃんのサンバイザーを頭にチカホを
歩いていただいた子供たち、皆様のおかげで、
無事に開催できましたこと大変感謝しております。
本当にありがとうございました。
今回のイベントで一人でも多くの方が「創業」に興味をもつ
きっかけになれば幸いです。

本イベントの詳細についてはBSTJ vol.3にてお届けします!



START-UP! STORY SPORTS・MIND「岡村真吾さんの創業物語」

「スポーツを通じた社会貢献をしたい」
そんな思いから2013年・秋に児童発達支援・放課後等デイサービス「すぽ・まい」を開設した、株式会社スポーツマインド代表取締役岡村真吾さん。岡村さんが会社を設立するまでの物語、創業への想いをお聞きしてきました。

岡村真吾さんの創業キーワード Start-up! Keyword

ぶれない軸

START-UP! BUSINESS SUPPORT TEAM JOURNAL VOL.002



北海道信用保証協会 業務部 企業支援課
札幌市中央区大通西14丁目1 TEL. 011-241-5605
<http://www.cgc-hokkaido.or.jp/>

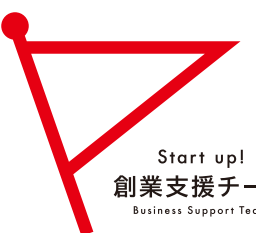


facebook
北海道信用保証協会
創業支援チーム



2015.2.27

ひとつの創業には、 たくさんの物語がある。



事業内容の紹介

SPORTS・MIND Data

スポーツを通して多くの方に感動体験を届けたい。
スポーツビジネスの可能性をもっと広げていきたい。

株式会社スポーツマインドは2013年6月に設立。代表取締役の岡村真吾さんは、「スポーツを通して社会貢献をしたい。スポーツによる感動体験を多くの人に提供していきたい。そう思って、スポーツビジネスを起業しました」と話します。

同社の業務内容は多岐に渡ります。地域密着型のスクール事業、パーソナルトレーナーの派遣事業、コンサルタント事業を展開。大きな施設を持たない分、フットワークを軽く、アイデアで勝負。この業態の幅の広さ、可能性を大いに感じます。



より細やかに、利用者の声に応えたい。
そんな想いが、起業の道へと突き動かしました。
大切なのは”ぶれない軸”を持つこと。
日頃のネットワークも大きな味方になってくれました。

野球少年だった岡村さんは「スポーツに携われる仕事がしたい」と、大学卒業後は大手総合フィットネスクラブに就職。まだフィットネスクラブが一般的ではなかった時代ですが、「成長産業になる」という確信があったといいます。インストラクターから始まり、支店長、さらに北海道エリアを統括する支社長にまでキャリアを積んでいきました。「全国展開している大手は、やはり仕事のスケール感が違います。いろんなことを経験させてもらいました。ただその分、地域の事情に則した経営がしにくい一面も。現場の声に応えられないジレンマを、立場が上がるほど感じていました」。そして2013年1月、岡村さんは地域密着型のスポーツビジネスを志し、24年間勤めた会社を辞める決意を固めました。

岡村さんがまず最初に取りかかったのは、自分の考えをマインドマップで整理すること。「どんなことをしたくて、そのためにはどうしたら良いのか。チラシの裏にとにかく書き倒しました。ここが原点です」。

なかでも、江別市野幌にある児童発達支援・放課後等デイサービス『すば・まい』は、岡村さんが最も力を注いでいる仕事です。発達に心配のある子どもや障がいのある子どもを対象にした、身体能力の向上と社会適応を目指した療育機関です。「スポーツを取り入れた療育はまだ少ないのが現状です」。利用する子ども、保護者から共に人気かつ需要が高く、春までにもう1ヶ所、開設を計画しています。

次に退職の挨拶まわりを兼ね、多くの人に自分のビジョンを話すことを心がけたといいます。「先輩や同僚、後輩、取り引き先で話をする中で、自分の考えがよりはっきりとしました。また、知恵を貸してくれたたり、人を紹介してくれたりと、立ち上げには多くの方が協力してくれたのも嬉しかったですね。ネットワークの大切さをしみじみと感じました」。

岡村さんには夢があります。「一緒に働ける子が、『すば・まい』から出てくれたらいいなあと思っているんです」。さまざまな立場の人にスポーツの感動体験を届けたい。岡村さんのぶれない軸が、大きな可能性となって広がっています。

Photo

子供たちに合わせ毎日変わるサーキット	トランポリンはけっこうハード！	後片付けも楽しみながら	フラフープで全身運動
まずはスタッフも子供たちもみんなでウォーミングアップ	運動だけでなく作業も楽しめます	走る！跳ぶ！とにかく体を動かします。	ジャンプ！ジャンプ！

創業の動機や経緯について

一生関わっていききたい分野ですから
新たな提案をしていきたい。
そこに価値を見出しています。

スポーツに対する価値は、時代とともにどんどん変化しているように感じています。私が起業を考えたのは、スポーツを取り入れた新たな提案をしていくこと、小さな組織だからできる細やかな取り組みに魅力を感じたからです。会社を辞める決意をし、3ヵ月ほど有給休暇をいただき、準備を進めました。期間は短くても準備ができたのは、多くの方のアドバイスがあったからだと思います。



▲「何をしたいか、何ができるか」チラシの裏に書いたマインドマップが軸になっています。

創業時の苦労・悩み・解決方法について

事業内容を人に説明する機会を
多く持つことは、とても大事だと思います。
言霊にもなるでしょうし、自信にもなる。

苦労を苦労と思わないタイプなので、決断したからにはやるしかないと思っていました。自信はありませんでしたが、1つずつ積み上げてきました。強いて言うなら、銀行に資金の相談に行った時、これまでにないスポーツビジネスでしたので、将来性をどう感じてもらえるか、そこは熱意を持って話をさせてもらいました。人に事業内容を説明する機会が多いほど、話していく中で決意はより固まりますし、自信にもつながってくると思います。



▲スタッフとの出会いも大切な人のつながり。全員が想いをひとつに取り組んでいます。

経営において心がけていること

満足度や笑顔につながることを第一。
そこを大切にすることで、
利益は後からついてくると考えています。

“先義後利”という大切にしている言葉があります。目先の利益を優先するのではなく、優先すべきは利用してくださる方々、そして一緒に働いているスタッフの満足感を上げること。そうすれば利益は後からついてくるという意味です。笑顔のためにお金を使うことができているか、この1円を節約することが利用者さんのためになっているのか、そこをいつも自問自答しています。



▲「子供たちからパワーをもらうことも多いんです」子供たちへのとても優しい眼差しが印象的です。

START-UP! Advice!



まずは動くこと。
謙虚でありつつ、
軸をぶらさずに！

by 岡村真吾

頭の中でいくら考えていても、成果は出ません。また、リスクばかりを懸念していても前に進めません。何かあれば、その時に対処すればいいんです。まずは、動くこと！そして、謙虚な姿勢も大切。私の持論は、「信頼できる人が紹介してくれる人は、また、信頼できる」です。共感してくれる人の意見に耳を傾け、柔らかい気持ちで吸収していったら良いと思います。ただし、軸をぶらさないこと。強い信念を持つことが起業には大事だと実感しました。